|  |
| --- |
| 令和2年度　今治市地域福祉計画審議会  第1回審議会・会議録 |

|  |
| --- |
| 日時：令和2年11月18日（水）14：00～15：40  場所：今治市役所第２別館１１階　特別会議室１号  出席者：（委　員）  恒吉委員 上村委員 志尾委員 吉良委員 渡邉委員 臼谷委員 龍田委員 長野委員  藤野委員 御手洗委員 村上委員　原田委員 近藤委員 廣瀬委員　伊藤委員  欠席者：（委　員）  長岡委員  委員16名中15名出席  事務局：石丸健康福祉部長、橋田福祉政策課長、菅係長  受託事業者：リージョナルデザイン株式会社　安孫子 |

【議事進行】

議題：　１第2期計画の振り返りについて

２市民アンケートの調査結果について

３地域座談会について

４計画骨子案について

５今後の予定について

議題

恒吉会長：では、議事の一番目の『第２期計画の振り返りについて』を事務局より説明をお願いします。

事務局：『第2期計画の振り返りについて』＜資料説明＞

恒吉会長：事務局から第2期計画の振り返りについて説明を頂きました。4つの目標に対して、5年間取り組んできたことの総合評価がなされていますが、この内容につきまして、委員の皆様、ご意見ご質問ありませんか。なかなか数値目標が立てにくい領域もあるので、客観的評価が難しいところもあるのでしょうが、一応、第2期で重点的な取組に挙げていたものは、総合的にみると概ね、計画に基づいてある程度の取組ができたという認識でよろしいでしょうか。

事務局：はい。重点的施策について概ね好評でしたので、効果はあったと思います。今後事業を続けていく上で、人材確保が難しいという問題として浮かんできましたので、対応してといけないと考えています。

恒吉会長：先ほどの報告聞いていますと、いたる所で、人材の確保、担い手不足といったところがあります。これは地域福祉の重点的な課題になってくるのかと思います。後ほど骨子のところで、ご意見いただければと思います。何か、ご意見ご質問ございませんか。ないようでしたら、続きまして、議事２番目、市民アンケート調査結果と議事の３番目にあります座談会について事務局から説明をお願いします。

事務局：『市民アンケートの調査結果について』＜資料の説明＞

　　　 『地域座談会について』＜資料の説明＞

恒吉会長：住民アンケートと住民座談会につきまして、詳細な報告を頂きました。何か、皆様方からご質問、ご意見、感想など、何かありませんか。

吉良委員：地域座談会では、市役所の人が行って、聞くだけなのですか。皆と話しをして、今後今治市はこうなるといった説明はないのですか。

事務局：今回の座談会ですが、今年度の前半で行う予定でしたが、コロナの影響で座談会が開けませんでしたので、社会福祉協議会が『地域福祉活動計画』を策定する時に行った座談会の資料を使わせてもらっています。そのため、あくまでも住民の話を聞くだけになっています。

恒吉会長：他に何かございませんか。この市民アンケートの標本の3000の分類は、エリア、年齢はどういった分け方でしたか。

事務局：エリアの人口の比率で出しており、年齢についても人口比率で出しています。島嶼部については、高齢者の方の割合が大きいです。

恒吉会長：わかりました。アンケートの結果についてよろしいでしょうか。また、説明が終わった後、皆様の意見を頂く時間を設けます。続きまして、議事の４番目、『計画骨子案について』、ですね、事務局から説明をお願いいたします。

事務局：『計画骨子案について』＜資料の説明＞

恒吉会長：ありがとうございました。第３期の計画骨子案について説明を頂きました。次回には具体的な中身が加わってきますが、今日のところは、第３期計画の基本的な考え方、柱の考え方、ご提案がありましたように、計画の基本的な視点、これは第2期計画を継承するといった案が提案されていますが、この点についてよろしいでしょうか。

　　地域課題は急激に変わるものではありませんので、取り組む方向性というのは、基本的には変わらないものです。継承するということについて、皆様方ご了解いただくということでよろしいでしょうか。ある程度、ボリュームが出てきて、完成形に近づいた時、「この柱がおかしい」となったら、元へということになりますので、ここのところ、皆様方にご了承いただきたいと思います。また、４つの基本目標についても、何かご意見ありませんでしょうか。

　　私の方から、気になるところがあります。27ページの地域づくりのところで、地域の関係希薄化の解消、共助のための地域力向上とありますが、これは共助でいいですか、例えば、自助、共助、公助の３つの分け方であればいいのですが、共助でいいのですが、基本的な地域福祉は、自助、互助、共助、公助の４つに分けてありますので、共助といったら、社会保険制度みたいなものを指していますので、互助になるのではないかと思います。住民の自発的な取組とかといったことで、検討いただければと思います。

事務局：確認して訂正させていただきます。

恒吉会長：何か皆様のほうからございませんでしょうか。

長野副会長：現状のところで、気になったところがあって、計画の位置付けで、第3期今治市地域福祉計画、成年後見制度基本方針、地方再犯防止推進計画が表に記載されていることに違和感があります。ここで、書かれている成年後見制度基本方針、地方再犯防止推進計画は、サブタイトル的なものが入るのではと感じますが、何か意図があるのですか。

事務局：今回の計画では、再犯防止計画や成年後見制度推進計画を、地域福祉計画と一体化する予定ですが、それらの位置づけとして、説明なく中に含めているので、変な印象になりました。

　計画の位置づけ図を再考いたします。

長野副会長：『今治市の現状』のところで、骨子案の段階で適切ではないのかもしれませんが、高齢者人口の増加のところで、「世帯数が増加したことにより、高齢者の単身世帯が増加した」という現状評価はその通りだと思いますが、表現としては世帯内の平均人員が減ってきたことにより、単身世帯が増加したという表現が正しいのではないかと思います。

　　また、『今治市の福祉の現状』のところで、「要介護１の増加が大きくなっています」とありますが、そのことについて何が課題で、何が見えてくるのか、計画のところで出てくるので、現状のところではこうなるのですかね。現状はその通りですが、表現としてこれで終わっているので気になりました。

事務局：わかりました。表現内容について検討いたします。

吉良委員：世帯の推移のところですが、母子家庭とか父子家庭の推移は判りますか。

事務局：ひとり親家庭の正確な数値は把握できていません。ひとり親の手当てを出している方について数値はでていますが、手当の支給に当てはまらない家庭もありひとり親家庭の全体数は把握していないと子育て支援課から聞いています。

恒吉会長：ひとり親家庭世帯の数値はわからないのですか

事務局：市民課に確認した所、ひとり親家庭の数はわかりますが、ただ単に単身赴任で片親が居ないのか、離婚等で居ないのかの区別がつかないので、母子家庭や父子家庭かどうかはわかりませんという事でした。

吉良委員：お互いに助け合う中で、老人も大事だと思いますが、子どもの未来も大事な事ではないかと思います。データが出ないなら仕方ないですが、小さい子どもが育って、将来、犯罪を起こさないこととかが、地域福祉の一番の近道ではないかと思います。ちゃんと働いて、今治で生活してくれる、そのためには、やっぱり、お金を使うシステムを考えてもいいのではないかと思います。

恒吉会長：地域福祉計画のような分野横断的な計画に対して、現状のところでも、最終的に取組むべき課題が高齢者を包括したウエイトが高い気がします。高齢者福祉、障害福祉、児童福祉、生活困窮とか、できるだけ地域の現状が見えるように、可能な範囲でデータを集めてくれればと思います。よろしくお願いします。

吉良委員：計画の作成はいいのですが、実際何かしようとしたら、お金がかかるのですが、計画に対して予算はつくのですか。

事務局：基本的には、各計画の総合計画ということになりますので、実際の事業については、それぞれの下位計画の中で考えてくださいという形になります。

吉良委員：これは、計画は立てるけども、予算は別ということですか。コロナ対策については、お金をどう使うかを別に話し合わないといけないということですね。

事務局：今回のコロナ禍に関しては、県の事業もありますし、市もコロナに関する予算に取組んでいます。今回の計画は、福祉計画全般にあたるもので、その下位の実施計画で事業を行っていきますが、コロナ対策については、この計画策定に間に合わないと思いますので計画とは別個に予算組して、実施していくことです。

恒吉会長：他に骨子案についてご意見ご質問とかありませんでしょうか。それでは、大きなところについては、ご指摘がないので、この形で、アンケート分析の結果とか書き込んでいっていただければと思います。委員の皆様からご意見いただいて、計画に反映できたらと思いますので、それぞれの御立場でお話を頂ければと思います。日々の地域活動に関して、何かご意見ありませんでしょうか。

藤野委員：自治会の方からですが、自治会の加入率が減少しているところで、昨年、県宅建協会、今治市宅建協会、今治市、今治市連合自治会が４者協定を結んで、集合住宅の自治会加入率を上げようとしています。

　アンケートの結果でも、近隣住民との日常的な会話や交流を拡げる事が重要とあり、第３期計画案でも地域の関係希薄化の解消とあるのですが、実際に地域住民と接すると、近所づきあいが面倒という意見が多く、住民一人ひとりの意識改革をどう進めるかということが、各種団体との連携の中でも基本的な事ではないかと感じています。

恒吉会長：ありがとうございます。アンケート分析にもありましたが、自治会あたりが、地域活動の拠点みたいなプラットフォーム的なところになればいいのでしょうが、地域住民の方々の意識が弱いというのが問題ですね。

　　ただ一方では、今回の社会福祉法の改正でもそうですが、地域住民の方々の意識をいかに高めていくのかが、地域づくりの一番ベースとなるところだと言われていますので、今回の計画の中で盛り込んでいかないといけないと思います。

　『我が事丸ごと』の我が事の部分ですね、我が事として受け止めて支援につなげる体制をつくっていかなければと思います。計画に盛り込んでいただければと思います。

吉良委員：高齢の方を支え合うのは大事なのですが、若い世代には助け合いの精神を植え付けるよりは、もともとそういった精神が希薄なのだとしてプランを進める方が近道なのではないかと思います。集合住宅の人に自治会に寄ることでどんな良いことがあるのか利点を説明してあげた方が良いのではないでしょうか。

　　若い子は縛られるのが嫌なのだと思います。そういった近所付き合いとかが嫌で都会に行ってしまう子もいるでしょう。自治会の加入に対しては割り切って考えた方が早いと思いますがどうなのでしょうか。

恒吉会長：そのあたりは、骨子の部分でも情報発信の項目がありましたが、その情報発信の仕方が重要と思います。

　　例えば、民生委員のなり手が少ない、何でなり手がないのか、大変そうだとか、福祉の従事者もしんどいとか、ネガティブな情報だけが走ってしまっているからだと思います。

　　もっとポジティブにとらえるために、自治会に入っているがために助かったとか、恩恵を受けたとか、成功事例があると、多様な方法で情報発信していかないと、内容と仕方が大事になっていくのではないかと思います。

近藤委員：アンケートの回収率が半分に行っていない。市の予想ではどうだったのですか。上げるためには何をすべきかを若い人から回収されていないみたいですので、アンケートの回収率が下がってくる、そこらを考えていかないと。

事務局：回収率は、40％は比較的高いものだと思います。偏りが出るというのは、小さい子どもに目が行かないのではないかと、高齢者の意見が多く帰ってくるので、そっちの意見が出てしまう。回収率ではなく、返してくる人の割合を変えていく方法があるのかと思います。

恒吉会長：今治市の封筒で出すから、まだ、40％で返ってくるのだと思います。これが研究の為に調査だったら10％も帰ってこない、行政の計画だから回収率が高いのか、裏を返せば、地域福祉への関心度がこうなのではないかと。回収率が高いと地域福祉への関心度が上がってきたと思います。

恒吉会長：心配しているのは、すごく少子化になっていますよね。そうなると、納税者が減る、まちが活性化しない。そうなる前に、今治市は、ある程度お金の使い方もみんなで考えて、世の中の流れはコンパクトシティですかね、もっと早くもっていかないと、今治に大きないくつか企業があって、余裕があるのだけど、悪くなる時は早いので、余裕のある時こそもっとPRして、今治市というまちが四国の中でも大きい規模なので、いかに長く勢いをもたせるところをもっと表に出して、そうしないと、若い子がいなくなったとなると、船関係、子どもらを東京や大阪に行かせて、教育の事とか、今治には西高があったり、松山に大学があったりするのですけど、島なんかもっと減っている、危機感を持ってやっていけばいいのですが、例えば、高齢者の10年と若い人の10年の価値は違うじゃないかと思います。その辺を地域考えるときに、悪くなる時は早いと思うのですよね。人口の減り方としては、高校が無くなるくらい減っていますよね、看護学生を集めるのも、定員割れしています、今治の看護婦さんはいなくなってくるし、遠いところから連れてくると、給料を上げなくてはいけない。そのうち、民間病院はやれなくなるから、大きな病院、そうなると、きめ細やかなサービスや医療は融通がきかなくなるのですね。危機感をもっと出して、アンケートで聞くのもいいのだけど、今治市としてはこうなのだと、作戦を練っておいた方がいいのではないかと。アンケートでこうでしたではなくて、並行して少子化対策、皆さん集まって、もったいないともうんですね。人口減っている。30年前に比べて、半分くらいかな。皆さん、周りに若い人いないからわからないかもしれないが、今治市のイメージでは、年間千人生まれていない、死ぬ人が3千人、減っていませんか。そのへんもしないと。

恒吉会長：子育てのところは、先ほどもでましたが、少子化を止める、今治という地域が子育てしやすい、産み育てやすい地域となれば、歯止めかけられると思いますので、いかにして、地域づくりができるのか、地域福祉の関係ではないかと思います。

上村委員：最近気になっていることで、ヤングケアラー聞いたことがありますかね。18歳以下の子が親やおじいさんおばあさんを家でケアをしている。その子たちが、学校に行けなかったり、抑え込んでしまって、虐待に繋がったり、22歳の幼稚園教員の方が、おじいさんを殺してしまった、介護殺人ですが、その子は家庭も複雑で、頼るところもなくて、言わせない状況、言われない状況で殺人という答えになって、反省としては、確か、執行猶予になったかで、問題となっています。この面も盛り込んでいただけたらと思います。

恒吉会長：これは、ヤングケアラーに関しては、前提に自治体が、ヤングケアラーの数を把握しきれていない、家庭に深入りできないので、実態把握ができていないところで、数値が把握できていないのですかね、一方では、ヤングケアラーが自分の兄弟の世話、親の世話で学校に行けなくて、学校を中退して中退したことで、適切な仕事に就けなくて負のスパイラルが発生している状況があって、どうゆう介入が必要なのか、愛媛では学校教育機関にスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーがいらっしゃるのでしょうけども、スクールソーシャルワーカーが家庭の問題に直面するようなところの配置が遅れている。重要視していないのか、香川辺りでは重要視して、スクールソーシャルワーカーをまんべんなく配置しているのですけども、目に見えなくて苦しんでいる子どもたちがいるのではないか、そういったところもケアする支援が大事なってくると思います。

事務局：ヤングケアラーの実態を把握できていないのはそうです。児童虐待、年間150件通報があります。そのうち、虐待として対応した世帯は、およそ50～60件くらいが、対応している。それと、初めに、吉良委員さんがおっしゃっていた、母子家庭、児童扶養世帯1500世帯で推移しています。それから、今後人口減少が進むという、別のところで検討があります。ひとまちしごと総合戦略とか、今治市全体の検討で、地域福祉計画とかかわりないわけではありませんが、将来の人口減少、20年後には11万あまりになるといわれています。問題は、そうなった時の年齢構造だと思います。生産年齢人口、年少人口、高齢者人口、働く場がないと都会に人口を送り込んでしまう、そうならないように、重視していくための計画があるのかと思います。

吉良委員：コロナの第三波が来ているということで、医師会で90歳の人を60歳くらいの人が看ている、仕事休んで、もし、60歳の人がコロナに罹ったとして、90歳の人が濃厚接触になってしまう。そうゆうのは話し合ったりしていくのでしょうか。違うかもしれませんが、この場所は、この話だけとするけど、せっかく集まっているので、アイデアが出ると思います。せっかく人が集まっているのでもったいない。そういった意見があるのかと聞いておけば、次につながる。実にもったいないと思う。老々介護の人のコロナの話が、結果がどうこうではないけど、起こる可能性があるので、市役所も考えてください。60歳の人は入院、90歳の人は誰も看ません。言い方悪いけど、マスコミにはぼろくそ言われる。医療関係者も余裕がないから、医療従事者が大変なのですね。市でも考えて欲しいと思います。よろしくお願いします。

恒吉会長：冒頭の方でも言いましたが、予想しなかった状況になって、地域に暮らす方々への支え方、考え方を改めないといけない。民生委員の活動だって、普段であれば、お宅を回りながら、確認しながら、コロナになって、高齢者の方は外出を控えてください、家の中から出ないでくださいとなった時、どうゆう見守り支援したらいいのか。訪問ができない、生きがいでサロンに通っていたのが、完全にひきこもってしまった、どう支援していくのか。福祉の領域では解決できないところなので、それこそ分野横断的になって、支援の在り方を考えていかないと、今後は必要になってくると思います。地域福祉計画の中で、何かしら見守り支援の在り方、この５箇年の中で考えていく意識を持っていければと思います。他に何かありませんか。それでは、皆様方から頂きました、ご意見をもとに、計画の方に反映できればと思います。人材が足りないという共通の課題、座談会でもありましたが、外出支援、移動支援が増えてくるだろう。来年4月からはしりますが、改正社会福祉法でもありますが、相談支援の在り方、身近な場所での相談場所をつくっていく、地域住民の活動達の活動参加の場をいかに増やしていくのか、改正社会福祉法でも盛り込まれていますので、そういったところも意識して、盛り込んでいく検討をお願いします。今後のスケジュールについて説明をお願いします。

事務局：資料の説明　今後のスケジュール

恒吉会長：次回、12月末か1月初めにボリュームのある計画案が示されると思いますので、皆様方のご意見いただきながら、パブコメを介して、計画策定となりますので、よろしくお願いします。

以上